

# みなとからの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)  
<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

## Contents

- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| ■ スキルラボ紹介 …………… 1    | ■ 新任医師のご紹介 …………… 4        |
| ■ 骨粗鬆症のお話 …………… 2    | ■ 放射線科関連検査予約申込書について …… 4  |
| ■ 歯科口腔外科のご紹介 …………… 3 | ■ 4区医師会・合同研究会開催のお知らせ …… 4 |

## スキルラボ紹介

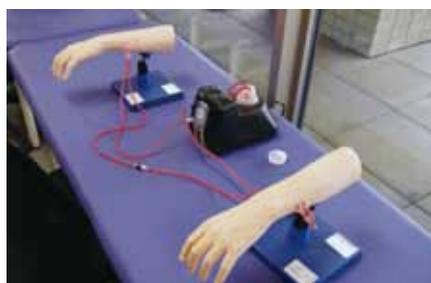
スキルラボ施設長 救急科部長 伊藤 敏 孝

昨年10月にオープンしたスキルラボを紹介いたします。当施設の設立目的は、院内外の医師及び看護師、医療スタッフに対して各種シミュレーターを使用し、より現実に即した訓練を行うことです。当施設のスタッフである伊藤（救急科）、間瀬副部長（看護部）、竹下主事（臨床教育研修センター）が中心となり運営しています。

備品としては、蘇生人形（ALS人形2体）、BLS人形（10体）、採血用シミュレーター（6体）、ラップメンター（鏡視下手術用シミュレーター）が中心となります。このラップメンターは精密な腹腔内手術を再現できる非常に高価なシミュレーターで、都内の大学病院でも本機材を保有する施設は数施設のみで、市中病院で保有するのは現在のところ当院のみです。施設内には病室を再現したスペースを設置し、看護研修等に使用しています。4月には、看護師の新人教育を当施設が中心となり実施しました。また、初期臨床研修医

に対する導入並びにシミュレーション講習会を1週間にわたり実施しました。off-the-job trainingとして、救急医学会並びに臨床救急医学会認定コースであるICLS（心肺蘇生）コース、JPTEC（病院前救護）コース、JATEC（外傷初期診療）コース、ISLS（脳卒中初期診療）コースを定期的に開催しています。また、当院独自のコースであるみなと外傷コースやMinato CIECER（みなと救急外来初期診療）コースも開催しています。以上のコースを月2、3回の頻度で開催し、院内外から多くの方に参加していただいています。

院外にも開放したコースもあり、施設も手続きをしていただければ利用可能です。地域の医療機関の方で蘇生の講習会などに参加ご希望の場合や施設見学などのお問い合わせは研修管理センターの竹下までご連絡ください。



## 『骨粗鬆症のお話』

副院長・整形外科 小森博達

人口の高齢化に伴い骨粗鬆症の患者は著しく増加しており、人口の1割に当たる1200万人もいると推計されています。骨粗鬆症とは「骨強度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる疾患」と定義されており、言い換えますと骨粗鬆症は骨折を生じるに至る病的過程で、骨折はその合併症ととらえることができます。すなわち、高血圧を放置すると脳血管障害や循環器疾患に高率に罹患したり、糖尿病のコントロールが悪いと腎疾患や眼病変に罹患するのと同じように、骨粗鬆症を放置すると日常生活の中では通常起こらない脊椎圧迫骨折や大腿骨頸部骨折を受傷することになりますので、早期に診断して治療を開始することが重要であることは言うまでもないことです。

国が立案した「新健康フロンティア戦略」や「第2次健康日本21」でも、介護予防対策の推進の中で骨粗鬆症による骨折の予防は大きく扱われていて、健康寿命（健康問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）を延長することにより活力のある社会に導くことが謳われています。また、2011年に改訂された「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン」に、初めて予防と検診の項目が追加され、予防の重

要性が強調されています。

しかし、骨粗鬆症に対する予防治療が広く行われているとは残念ながら言い難い状況にあります。その理由のひとつとして、診断と薬物治療開始基準において脊椎レントゲン写真の正確な読影と腰部ないしは大腿骨頸部のDEXA法による骨量測定が必須で、治療を開始した患者さんにおいても定期的にこれらの検査で治療効果の判定を行わなければならないことにあると思われます。この問題の解決のためには、腰部や大腿骨頸部の骨量測定機器をもつ病院の勤務医と地域の先生方が連携して対応していくことが必要になります。

当院整形外科では地域の先生方と共に、無症状の方々のなかで骨量が減少している患者さんを早期に診断し、骨量のさらなる減少をくい止め、将来に起こる骨折を予防したり、骨量がすでに著しく低下している高齢者では、骨量の維持とともに転倒防止を促す活動をお手伝いしたいと考えております。

当院にあります骨量測定機器を、地域の先生方により一層御利用いただき、地域一丸となって骨粗鬆症治療を行う環境を作って行ければと思っておりますので、よろしくお願い致します。



骨粗鬆症により2年間で胸腰移行部の3つの脊椎骨に圧迫骨折が連続的に起こり、腰痛の訴えが続いただけでなく、身長が4cm縮み、姿勢が著しく悪くなり腹部症状の訴えも強くなった患者さんのレントゲン写真

# 歯科口腔外科です

～これからもよろしくお願い致します～

歯科口腔外科 部長 向山 仁

総合病院の歯科・口腔外科として平成17年の開院以来、地域医療機関のご紹介、ご協力のもと口腔外科疾患・有病者歯科治療を中心とした歯科診療を行っております。また、他科入院患者さんに支持療法として周術期、化学療法期の口腔ケアや歯科治療を積極的に提供し、口腔管理から原疾患治療のサポートを行っております。口腔顎顔面外傷には、救急部、形成外科をはじめとする他科と協力して診療にあたっています。年間延患者数も開院時の約5千人からほぼ1万人となり、歯科医師2名歯科衛生士2名で始まった歯科口腔外科も現在は常勤歯科医師3名、歯科研修医2名、歯科衛生士4名と人員の拡充もできてまいりました。これも地域の医療機関の皆様のご支援の賜物と非常に感謝しております。

開院依頼診療において特筆すべきことは平成20年から粘膜外来を開設し、扁平苔癬、口腔乾燥症（シェーグレン症候群）などの口腔粘膜疾患に対して、この分野の権威の藤林独協医科大学口腔外科前教授に支援を頂き、確実な診断と有効な治療を行っております。

保険外診療と昨今良き悪しきにつけ話題となっている人工歯根（デンタルインプラント）埋入に

よる咬合機能回復については、埋入手術を清潔レベルが保たれている中央手術室にて行っており、開院以来100症例を超えていますが、特段のトラブルもなく良好な臨床成績を上げています。

何かと怖い、痛い、親知らず（智歯）の抜歯ですが、静脈内鎮静法を応用した日帰り抜歯や一泊二日での全身麻酔下での抜歯も積極的に行っており患者さんのストレス軽減をはかっております。この治療を経験された患者さんより良好な評価を頂いております。

当院では電子カルテを使用してチーム医療を展開しており、口腔ケアサポートチームも本年2月からこのシステム参加しております。リハビリ科医師、歯科医師、言語聴覚士、看護師、歯科衛生士とともに口腔ケアサポートチームを形成し、院内入院患者の口腔ケアに取り組んでおります。おかげさまでわれわれの活動が各種雑誌に取り上げられました。口腔ケアに関する成果を書籍として武蔵野赤十字病院と共同で発行します。

歯科口腔外科は週日午前午後ともに新患を受け付けております。ぜひご紹介ください。皆様のお役に立つように頑張ります。



研修医  
石田 譲

副部長  
中島 雄介

歯科医  
森田 綾子

歯科衛生士  
小野寺敬子

受付  
三森 春香

部長  
向山 仁

歯科衛生士  
川本真規子

歯科衛生士  
飯田 佑子

研修医  
横山 紀典

